



東温市の恵みをおいしい給食へ 親子で挑戦！スクールランチコンテスト

7月26日⑩に、市総合保健福祉センターでふれあいスクールランチコンテストを開催しました。同コンテストは、市産食材の普及と食育を目的としており、小、中学生親子6組が考案した料理を作りました。最優秀賞には今井さん親子（写真左）の「東温スタミナ丼」が選ばれ、「焼き肉風味なので、食べて元気になって欲しい」と話していました。入賞した料理は大量調理向けにアレンジして、給食で提供されます。

東温市一体でチームを後押し 東温市マッチシティで愛媛FCを応援

8月9日⑩に、ニンジニアスタジアムで、東温市マッチシティで愛媛FC対奈良クラブ戦が行われました。試合前には、県立東温高等学校書道部・ダンス部と坊っちゃん劇場のキャストによるパフォーマンスが披露され、会場を盛り上げました。その後、市内のサッカークラブに所属する小学生がエスコートキッズとして選手と一緒にピッチへ入場。試合は愛媛FCが4対1で勝利し、サポーターと喜びを分かち合いました。



狙って投げて、みんなで楽しむ ボッチャ体験会開催

8月1日⑨に、クールス・モールで「東温ボッチャの会」による体験会が開催されました。ボッチャは、目標となる白い玉に近づけるよう、赤と青の玉を投げて得点を競う競技で、当日は子どもから高齢者まで約40人が世代を超えてボッチャを楽しみました。参加者は、ボールの行方を見守りながら、狙いどおりに投げられると歓声を上げるなど、笑顔で交流を深めていました。

江戸から明治の建築が共存する歴史ある住宅 坂本家住宅を国登録有形文化財に答申

国の文化審議会は、7月17日⑨に、南方の坂本家住宅を国の登録有形文化財（建造物）に登録するよう文部科学大臣に答申しました。同住宅を守る会会長の森正経さんは「将来に向けて残し、活用していくことへのお墨付きをもらったことで、宝として磨きがいが出てきました。地域の歴史と関わりが深い場所なので、皆さんと一緒に磨いていき、この場所が輝くと同時に市民も輝けたら」と話していました。



地域の偉人の功績を学び伝える 上林小の児童がふるさとの魅力を発信

7月15日⑧に、見奈良天然温泉 利楽で開催された県市町教育委員会連合会定期総会で、上林小学校の児童が発表を行いました。児童たちは、上林出身で伝説の石工と呼ばれた菅能宇吉氏について、松山城の石垣修復に携わった功績など、クイズを交えながら分かりやすく紹介し、会場からは大きな拍手が送られました。発表した児童は、「大きな声でゆっくり話すことを意識しました。練習の成果を発揮できて良かったです」と振り返りました。

大切なのは、いたわり愛 犯罪や非行がない明るい社会を目指して

7月30日⑩に、市中央公民館で、第10回“社会を明るくする運動”東温市大会を開催しました。夫婦漫才コンビの中山まさとも・つかささんによる講演や、重信中学校の水沼李緒さん、川内中学校の和田莉桜さんによる意見発表が行われ、相手を思いやる心や地域の繋がりの大切さを改めて考える機会となりました。意見発表の内容は、右記二次元コードからご覧いただけます。



市産食材の魅力を発見 東温高校家庭クラブ調理実習

7月17日⑨に、県立東温高等学校で市産食材を使った調理実習が行われました。今回の調理実習では、「廣川農園」のパクチーを使った東温チャプチェと、「いちご日和」の苺を使ったシェイクを調理し、市産食材への理解を深めました。生徒は、「今回のレシピは、何度も試作を重ねて完成させました。市の食材はとても美味しいので、多くの人にその魅力を知ってもらえたら嬉しいです」と笑顔で話していました。

2人の女性職員が被災地へ 熊本地震の避難所支援に職員を派遣

8月13日㊦から19日㊦まで、熊本県氷川町の避難所に2人の市職員（写真右から2番目、左から3番目）を派遣しました。

派遣職員は、「限られた期間ではあるが、女性職員が派遣される意味や避難所での自分の役割をしっかりと考え、絶え間ない支援の一助になれるようにしたい」と話し、約5日間、現地の避難所運営を支援しました。



子どもたちを守るため、先生たちが話し合う とうおんハート救命プロジェクト開催

8月6日㊦に、市消防本部でとうおんハート救命プロジェクト教職員研修会を開催しました。学校救急体制の構築をテーマに、地域モデル校の北吉井小学校と重信中学校が、心肺停止発生時の対応手順をまとめたアクションカードの活用や救命体制づくりに向けた1年間の取組を発表しました。最後のグループ討論では、教職員等が各学校の課題や対応について意見交換を行い、理解を深めていました。

日々の練習の成果を発揮しました 第35回県消防操法大会3位入賞

7月26日㊦に、松山市堀之内城山公園管理広場で第35回県消防操法大会が開催され、県下市町の代表17チームが出場し、ポンプ車操法における日頃の訓練成果を競い合いました。東温市からは、昨年度市消防操法大会で優勝した第2分団（牛淵）が出場し、見事に3位入賞を果たしました。また、各番員の最優秀選手に、2・3番員が選ばれました。



出場選手（右から）
 1番員 矢野 つかさ 2番員 八木 ゆうき 3番員 宇都宮 なおき
 指揮者 露口 まさと 4番員 村上 たけし 補助者 片上 よういち



4者の力をかけ算し健康日本一のまちへ まちづくり連携協定を締結

7月24日㊦に、市、愛媛大学医学部附属病院、愛媛医療センター、四国がんセンターの4者が、「とうおんメディカルタウン構想 Plus」に基づく「かけ算」によるまちづくり連携協定を締結しました。この協定に基づき、健康づくりや医療人材の育成、子育て支援などをさらに推進していきます。市長は「行政の地の力と3つの高度医療機関の知の力を融合し、かけ算の相乗効果を生み出していきます」と話していました。

あのときは、ありがとう *Thank you for the other day*

婦人会が設置した「あのときはありがとうポスト」へ寄せられたメッセージの一部をご紹介します。言えなかった「ありがとう」を匿名で投函できます。投函されたメッセージは、ポストの側に掲示しています。

▶設置場所…中央公民館、川内公民館



だんさで自転車から川
 におちたときに中学生
 がたすけてくれた。
 Yより

一人になった今、声かけをしてくれて
 ありがとう。声を発することが少ない
 私には、声をかけてくれることが一番
 うれしいです。

花だんの草引きをしているとき、
 中学生が下校していました。一
 人、また一人、女の子、男の子、
 ばらばらに通るすぎるとき、ど
 の子もあいさつをしていきまし
 た。川内中学校の生徒さんって、
 素直でやさしくて、いい子だな
 と思いました。中学生の皆さん、
 やさしい心をありがとう!!

買い物時に電動アシスト自転車の
 バッテリーが切れ、充電したが付
 け方が分からずもたもたしていた
 ら、近所のお兄さんが見ていたのか、
 バッテリーの入れ方を教えてくれ、
 それからすぐ簡単にできる様に。大
 助かり…。その後会えなく、「ありが
 とう」の言葉が言えず、ここで感謝を。
 T・Kより



いざというときに居合わせた人の行動が鍵に 市民と北吉井幼稚園職員が一人の命を救う

佐藤未帆さん、山内伸昭さん、認定こども園北吉井幼稚園職員が、園付近で倒れていた傷病者の救命に貢献。救命活動がなければ傷病者の社会復帰は難しかったとして、7月15日㊦に市消防が感謝状を贈りました。傷病者を見つけた園職員が、園児を迎

えに来ていた看護師の佐藤さんと消防士の山内さんに助けを求め、2人は救急車が来るまで交代で胸骨圧迫をしました。また園職員は119番通報、応援の要請、毛布を使った傷病者のプライバシー保護を実施。3者の迅速で的確な行動が一人の命を救いました。

Interview



園の先生方が通報や応援要請をしてくださり、山内さんが交代で胸骨圧迫をしてくださるなど、皆さんと協力して対応できたのでとても助かりました。



何とかして救急隊が来るまでの間を繋ごうと対応しました。佐藤さんと園の先生方の初動が良かったので、傷病者の社会復帰に繋がったのだと思います。